

第43回農林水産政策会議の概要

- 日 時：平成22年5月26日（水）17:00～17:30
- 場 所：衆議院別館 講堂
- 出席者：舟山政務官、池田消費・安全局畜水産安全管理課長、原田生産局畜産企画課長、渡邊生産局食肉鶏卵課長
- 議 題：口蹄疫の対応状況等について

1. 会議冒頭挨拶

（舟山政務官）今日は急な招集となり、議員の方々の出席も非常に少ないが、これから当分の間は火・水・木曜日のこの時間に政策会議を定例開催することとしたい。与党議員には適時、適切な情報を提供したいので、日々の口蹄疫の発生状況、ワクチン接種状況、関連対策等をお伝えする。定例日以外でも、本省口蹄疫対策本部幹事会を開催した場合など政策会議を開催していきたい。また、月・金曜日であっても、動きがあれば資料配付等で適宜対応する予定である。皆様のご理解ご協力をお願いしたい。

本日は、ここ数日の動きについて報告をさせていただく。また、マスコミ等で「与党は初動が遅い」と、よく批判されているが、我々は第一例目発生時の対策本部立ち上げから即時対応しており、皆様におかれては、「後ろ指を指されることはない」と、自信をもってお答えいただきたい。

2. 池田消費・安全局畜水産安全管理課長から資料に沿って説明

3. 出席議員からの主な発言

（皆吉議員）3点伺いたい。まず、埋却処分について、イギリスでの口蹄疫発生時には、大型飛行機で器材を運び、焼却処分が行われたとのこと。日本においても、埋却場所で焼却し、埋却できる頭数を増やすというような検討はなされていないのか。次に、ワクチン接種について、ワクチンの効果が出るまで1～2週間かかるということから、既に接種時期が遅いとの声を聞く。銃を使った殺処分を行うべきではないか。最後に、私の地元隣接しているえびのについて、6月5日に清浄性確認という方向で進んでいると承知しているが、その後の措置は何かあるのか。

清浄性が確認されれば、消毒ポイントの設置は解除してよいのか。

ワクチン接種従事者が、マスクを着用せずに作業に当たっている映像を報道で見たが大丈夫なのか。

4. 政務官、消費・安全局畜水産安全管理課長、生産局畜産企画課長からの主な発言

【口蹄疫対応状況関連】

（舟山政務官）ワクチン接種は今日でほぼ終了。現地では着々と措置が進んでいる。防衛省にも御協力いただいております。埋却地としての新田原基地利用に関しては現在交渉中。

特措法案は、自民・公明党から昨日国会に提出され、民主党内部においても討議を進めた結果、昨日深夜に3党合意で原案が取りまとめられたところ。現在最終局面を迎えており、まとまれば委員長提案として提出されることになる。

九州、特に宮崎県の畜産の特徴として、狭い地域に密集しているということがある。この傾向は特に豚で顕著。このため焼却には市当局を始め近隣住民の理解を得る必要があり、なかなか難しいところ。ただ、いろいろな可能性の一つとして、焼却処分についても検討しているところ。

ワクチン接種のタイミングは難しい問題。打たずに済むならそうしたかったが、やむを得ず打つこととなった。これは結果論になるので何とも言えない。ワクチン接種作業が終了したら獣医師は殺処分に回れることになるので、今後も殺処分のスピードを上げていきたい。

(畜水産安全管理課長) えびのについては、5月13日以降発生がなく、何もなければ6月4日午前0時をもって制限を解除する運びとなるが、発生農家では1週間間隔で3回の消毒作業が必要。家畜の再導入は、こういった作業等をしっかり確認した上で行う必要がある。

外部からウィルスが進入する可能性はあるので、今後も消毒はしっかりやっていく必要がある。

ワクチン接種従事者については、マスクの着用を指導している。

(畜産企画課長) 焼却については、イギリスでは、所謂野焼きを行っていた。日本は移動式焼却機を名古屋の動物検疫所に2機有しているが、これは鶏用。牛を焼くとなると一度に1頭、1日に2頭程度の処理能力しかない。また、銃殺については、血液中に多量のウィルスが含まれるため、この血液が飛び散るというリスクが生じる。

(以上)